



# British Politics Today

2014年8月1日  
第3巻 第8号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk  
tomo@kikugawa.co.uk

## この号の内容

- 1 はじめに
- 2 コモンウェルスの価値
- 3 長期的にネガティブな移民の  
効果
- 4 事務次官と大臣の関係
- 5 キャメロン首相への批判
- 6 トップ政治家の妻たち

## グラスゴー2014 競技種目

陸上  
バドミントン  
ローンボウルズ  
ボクシング  
サイクリング  
飛び込み  
体操  
ホッケー  
柔道  
ネットボール  
7人制ラグビー  
射撃  
スカッシュ  
水泳  
卓球  
トライアスロン  
重量挙げ  
レスリング

## 1. はじめに

サッカーの世界カップではドイツが優勝した。イングランドは「予想通り」グループ段階で敗退し、今や世界ランキング 20 位である(ちなみに日本は 45 位)。一方、人口 500 万人足らずで二線級の選手の多いコスタ・リカは準々決勝で、3 位となったオランダに延長戦の末、ペナルティ戦で敗れたが、16 位。一流とみなされ高給取りの選手ばかりのイングランドを上回った。この差はなんだろうか？

## 2. コモンウェルスの価値

スコットランドのグラスゴーで 8 月 3 日までスポーツイベントのコモンウェルスゲームズが開催されている。公共放送 BBC はこのイベントを詳細にわたり報道しており、イギリス中がコモンウェルスゲームズで埋め尽くされているといってもよいほどだ。

コモンウェルスはイギリス連邦とも呼ばれ、これに参加している国はかつてイギリスの植民地だったところが多い。コモンウェルスゲームズは 1930 年に始まったが戦時中を除き、定期的に行われている。今回のグラスゴー大会では 51 の国から属領等を含めて 71 のチームが参加している。連合王国のイギリスからはイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドと海外領土、王室属領が参加している。全体で 5000 人近い選手が参加し、世界の最も大きなスポーツイベントの一つである。

スコットランドではこの 9 月 18 日にその独立をめぐる住民投票が行われるが、この住民投票を 2014 年に行うこととした一つの理由はこのコモンウェルスゲームズがスコットランドで開かれることだった。グラスゴーで行うことは 2007 年 11 月に決まっていたが、この重要さは、7 月 23 日に行われた開会式ではっきり示された。スコットランドのこれまでの歴史、産業革命の発祥の地などの過去が示され、スコットランドの住民のスコットランド意識を掻き立てるものであった。スコットランドのバグパイプの演奏は、いつ聞いても心を打たれる。ダンスにはスコットランドのケイリーと呼ばれるダンスがちりばめられ、民族的な色彩が極めて強いものだった。

この大会では、スコットランドの選手がこれまでになく活躍している。スコットランドの世論調査がどのように変化するか注目される。

一方、このコモンウェルスゲームズに参加しているチームはいずれも真剣だ。確かに 100 メートル男子のウサイン・ボルトは 100 メートルも 200 メートルも個人で走ることはなく、4X100 メートルのリレーだけに参加している。世界のトップクラスの選手は、この大会をオリンピックや世界選手権ほど真剣に受け止めていないが、多くの選手は非常に真剣だ。初めて金メダルを獲得して大喜びしているチームを見ると、その取り組みようがわかる。オーストラリアは多くのメダルを獲得しているが、その取り組みは真剣で、問題を起こした選手をすぐに本国に送り返すなど、関心の高さをうかがわせる。

イギリス連邦は、かなり緩やかな集合体だが、このコモンウェルスゲームズを見ると、参加国にとっては、その重要さがよくわかる。イギリス連邦が国際社会で存在感がある一つの理由のように思われる。

### 3. 長期的にネガティブな移民の効果

#### 正味の移民の数とは？

「外国からイギリスへ来て住む人の数」から「イギリスから外国に移る人の数」を差し引いたもの

多くのイギリス人は、イギリスへの移民を心配している。2010年総選挙の選挙戦中、ある労働党支持者が当時の労働党政権のブラウン首相に移民のことを質した。それがブラウン首相の気に障り、移動の自動車の中で、「頑迷な女だ」と愚痴った。ところが、ブラウンが車に乗る前に、スカイニュースから頼まれて身につけていたマイクを外すのを忘れていたため、その発言が放送され、「ダフィーゲート」が始まった。ブラウンはダフィーさんの自宅にお詫びに行く事態となった。

イギリス人のこの心配が、EUからイギリスを脱退させるというイギリス労働党(UKIP)の躍進につながっている。EU内では労働力などの移動が自由であり、そのためにEUから来る移民の制限は困難だ。EU参加国を中心とした欧州経済地域(EEA)からイギリスへの移民は年に正味(外国からイギリスへ来て住む人の数からイギリスから外国に移る人の数を差し引いたもの)で13万人程度である。

現在のEEA以外からも含めたイギリスへの移民の数は、年に21万2千人ほどだが、過去10年のほとんどは22万5千人を超えている。もしこの水準で移民が増えれば、移民から生まれる子孫も含め、2011年のセンサス時点で人口6300万人余りだったのが、これからの50年間で2千万人増え、75年間で2900万人増えるという。

[ある研究報告書で、大量の移民は、短期的には経済的なプラス効果があるが、長期的に見れば国民の生活水準を損なう](#)と指摘している。移民は、学校、住宅、病院、交通など多くの社会的、環境的な負担の増加を生み、若干のGDP増加の効果があるが、長期的にマイナスであるとの評価をしている。

キャメロン首相は2010年総選挙で移民を年に10万人未満とすると約束した。政府内では、今でもそれを達成しようとする動きがあるようだが、それが可能だと考えている人はほとんどいない。

EUの旗



キャメロン首相は、UKIP対策も兼ねてEU移民対策を打ち出した。昨年12月にはEU加盟国からの移民は、3か月間は失業保険などが受けられず、その後6か月間しか受けられないこととした。それをこの11月から、就労可能性が乏しい人は、受給期間を3か月と制限することとした。これには様々な条件がついていることから、EU移民をけん制する効果があっても、政府の財政的な効果はほとんどないと見られている。また、これには欧州委員会からEU法違反の疑いがあると指摘されている。

イギリス人は移民がイギリスの福祉制度を悪用していると信じている。政治家はそれに火をかけるような言動をしているが、その証拠は乏しい。最近も政府内部の調査報告書が移民の効果について肯定的すぎるとして保守党が異議を唱えたためその調整で発表が遅れたということがあった。

一方、[1992年から2012年までの20年間にEU内で移民から最も大きな便益を受けたのはドイツで、GDPの2.3%の効果があったが、イギリスは、GDPの1%の効果で6位であったという報告書](#)が出された。2012年にイギリスはEUから150億ポンドの便益があったが、イギリスがEUに支払ったのは実質85億ポンド。国民1人当たり、310ユーロ(4万3千円)のプラスだったという。

イギリスの移民の例から学べることは、目先の利益で移民を考えるよりも、長期的な視点に立って、できるだけ移民に頼ることを避けた方が好ましいということである。

## 4. 事務次官と大臣の関係

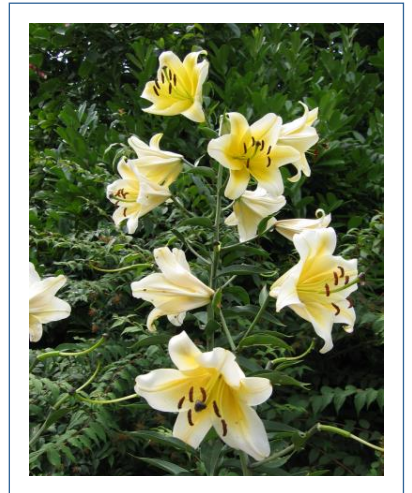
公務員関係を担当する内閣府大臣フランシス・モウドが、事務次官と大臣の関係について[タイムズ紙（2014年7月12日）](#)に投稿した。それまでの数日、事務次官は大臣に立ち向かえる人物であるべきとする任用ガイダンスに対してモウドが激怒していると報じられていた。

モウドは、公務員改革に躍起で、公務員の任命の政治化を推進しようとしている。保守党の重鎮モウドは、2012年のキャメロン内閣改造で法相就任を断り、準閣僚ポストの現在のポストに居座ったと伝えられる。今の仕事を他の人には任せられないと考えたからのようだ。[キャメロン首相は公務員改革にあまり関心がないという憶測](#)があるが、それなら余計にそうだろう。

モウドは、投稿の中で、大臣の役割は政策を決定することであり、それを実施するのが公務員であるとした。決定には公務員から最高の助言を受ける必要があるが、もしその決定に公務員が同意できないなら、それははっきりと言うべきであり、その決定にいつ従うか勝手に決めるべきではないという。そして、大臣の決定に重大な誤りがあると思われる場合には、大臣に指示書（Written Ministerial Directions）を書くよう求めるべきだとした。

モウドの議論は正しい。大臣の求める政策に明らかに問題があると思われる場合、省の会計を預かる事務次官はその旨をはっきりと大臣に伝えるべきである。もし、それでも大臣が考えを変えない場合、指示書を求めるべきだろう。13年間の労働党政権下でそれは37件あった。しかし、円滑な行政は、対立の関係ではなく、協働の関係から生まれると思われるが。

庭のユリ



### 雑記

イギリスでは政治家もホリデーに行くことが当たり前になっている。下院が休会になった後、7月下旬から9月の初めまでの間に夏季のホリデーに出かける。一般の人が海外にホリデーに出かけるのが当たり前になっているため、トップ政治家が家族とホリデーに出かけても誰もおかしいとは思わない。もちろんあまり頻繁に行き過ぎると批判を呼ぶことになりかねない。昨年キャメロン首相は、スコットランド、ポルトガル、スペインそしてイギリスのコーンウォールに行った。キャメロン首相は Chillaxing (Chill と Relax からの造語: 落ち着いてリラックスすること) が好きだが、それが過ぎる、家族サービスも大切だが、国を預かる仕事も大切だと批判された。首相周辺は、キャメロンはどこにいても、ブラックベリーですぐに連絡が取れるようになっていると反論した。

前任のブラウン首相のホリデー先はほとんど国内だった。その前のブレア首相は、海外の大金持ちなどの別荘によく行き、批判された。

自民党の党首、クレグ副首相は、妻のミアムのスペインの実家に行き、野党労働党のミリバンド党首はフランスに行くようだが、9月下旬からの党大会シーズン、そして来年の総選挙に向けて十分休養並びに充電することが望まれる。

最近、イギリスのマスコミで繰り返し取り上げられているのは、学校の学期中に海外にホリデーに行く親が子供を連れていく問題だ。イギリスでは、夏休みやクリスマス休暇などのほかに学期途中のハーフタームと呼ばれる一週間程度の休みもあるが、これらの休暇中にはホリデー旅行の値段が上がるため、安い学期中に通常2週間ほどのホリデーに行こうとするのである。これを減らすために、学期途中にホリデーに行く場合には罰金を科すことにした。これが大きな議論をよんでいる。

## 5 キャメロン首相への批判

7月中旬に内閣改造が行われたが、あと10か月の任期内に何ができるか疑問がある。総選挙を控え、連立政権を組む自民党との政権内での軋轢が増すのは間違いなく、この内閣改造は、単なる化粧直しに過ぎないと言える。

キャメロン首相は、内閣の3分の1は女性であるべきと発言したことがあり、女性を大幅に登用した。女性大臣の数が少なく、下院での「首相への質問」中に野党労働党のミリバンド党首から与党側の最前列は男性ばかりと指摘されたり、労働党の女性の影の閣僚を見下した発言をしたりしたことがあり、女性の登用でこれらのイメージ転換を図ったものと思われる。一方、閣僚の中で最も信念があると評価されている教育相のマイケル・ゴブをそのポストから外し、降格した。教員の多くと対立し、世論調査で人気のないゴブを総選挙に向けて交代させたと見られているが、教員の中には、ゴブの成し遂げてきた改革を評価し、惜しむ声もある。

タイムズ紙の政治部長が、キャメロン首相は内閣改造よりも自分の側近に手を入れた方がよいのではないかと示唆したが、キャメロン首相にはそのような考えは全くないようだ。しかし、最近、キャメロン首相の判断能力が問われることがたびたび起きている。EUの首相ともいえる立場の欧州委員会委員長のポストをめぐって、キャメロン首相はEU加盟28か国のうち、ドイツを含めた26か国が支持し、承認されたユンケル前ルクセンブルグ首相に反対した。MH17機撃墜を巡る制裁でも、不必要にフランスを批判した。これらで明らかになったのは、キャメロン首相の下で状況分析、判断をするスタッフの能力である。

庭のタチアオイ



## 6. トップ政治家の妻たち

メイ内相やハーマン労働党副党首は女性だが、ここで取り上げるトップ政治家と見なされる人は男性ばかりで、残念ながらその配偶者は妻ばかりである。

トニー・ブレア元首相の妻シェリーは著名法廷弁護士、ゴードン・ブラウン前首相の妻セーラはPR会社の設立者で数々のチャリティを設立し、デービッド・キャメロン首相の妻サマンサは高級文具雑貨のスマイソンのクリエイティブ・ディレクターだった。

ブレアは弁護士事務所ではシェリーと知り合い、結婚。二人とも政治家をめざし、早く議員になった方をもう一人が支えるという約束をし、ブレアが早く下院議員になったのでシェリーは政治家をあきらめた。

ブラウンは労働党のPRの仕事をしていたセーラと知り合い、ブラウンが財相時代に結婚した。その結婚式は親しい人たちだけの質素なもので、シャンペンにはスーパーマーケットの自社ブランドだった。

キャメロンは妹にサマンサを紹介された。結婚する前、キャメロンは内務相のスペシャルアドバイザーをしていたが、収入が少なかったため、メディア関係の会社の役員となった。そして下院議員となる。

いずれも能力のある女性で、妻の方が夫の収入を上回る状態だった。

ニック・クレグ副首相の場合もそうである。自民党の党首クレグは、妻のミアムとベルギーの大学院時代に知り合った。妻はスペイン人で、最初フランス語で会話していたという。ミアムは弁護士で、ロンドンのシティの大手弁護士事務所に勤務している。

エド・ミリバンド労働党党首の妻ジャスティンも環境問題の弁護士で、夫の収入を上回っている。ミリバンドがブラウン財相の下でスペシャルアドバイザーをしているときに知りあったが、ケンブリッジ大学で法律を学んだジャスティンが、なんと頭がいい人なのだろうと思われたと言われる。イメージでキャメロン首相に劣るミリバンドが、ジャスティンを「秘密兵器」として使う動きがあるが、どの程度効果があるだろうか？

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み：tomo@kikugawa.co.uk